

クラッピング・カルテット第1番

長谷部 匠 作曲

構造上のポイント 演奏上のポイント

「各メンバーがそれぞれ自分のパートを正確に演奏すればよい」という意識ではなく、全員で拍を共有することがとても重要。まるで一人のドラム奏者が演奏しているかのように息を合わせるのが理想。

♩ = 116~126

① ② ③ ④

AからDにかけて1パートずつ登場する

8ビートのハイハット・シンバルのリズム

8ビートのスネア・ドラムのリズム

8ビートのバス・ドラムのリズム

各小節とも1拍目の頭に8分休符があるので、拍を見失わないように注意が必要。

8分音符の連続に聞こえるように、全員で拍を共有することが重要。

パート①は、E・F・K・L・Mなどにも登場するこの曲のテーマ音型

1対3の形で①の呼びかけに対して

2対2の形で①②と③④がそれぞれ組になって演奏する

②③④が同じリズムで答える

①②のリズムと③④のリズムを重ねると8分音符の連続に聞こえることに注目

Iの部分のmpに向かって少しずつ弱く(poco a poco dim.)していく。

休符の多いシンコペーションのリズムなので、拍にしっかりと乗ることが大切。Iの部分の先に練習するとよい。

1対3の形で①の呼びかけに対して

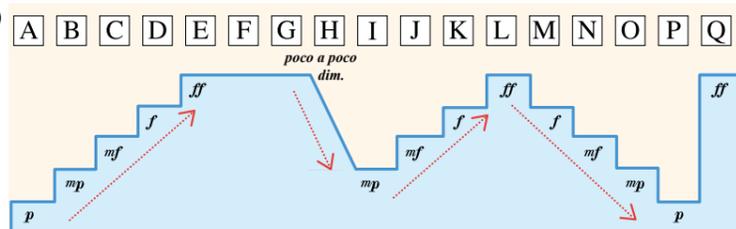
同じモチーフを①→②→③→④の順にリレーしていく

リレーしていく

②③④が同じリズムで答える

8分音符の連続が美しく流れるように全員で拍を共有することが重要

強弱の変化



Iの部分からスムーズに入れるように拍を共有することが重要。

演奏者全員で拍を共有し、聴いている人にも拍が伝わるように演奏することが重要。

各小節の1拍目を合わせる事が重要。休符のパートも含めて全員で1拍目を共有する。

Iの部分の第2のテーマ音型に④の8分音符が加わった形

Jの部分のリズムにパート②が加わる

③も②と同じリズムで加わる

8分音符

第1のテーマ音型の発展形

②と同じリズム

少しずつ音を弱くする中で、テンポが遅くならないように注意が必要。

M=D, N=C, O=B であることを注目

B→C→Dのときは逆に、少しずつ音が減っていくことによって、音楽がしだいに静まっていく

テンポをしっかりキープしながら、pが弱々しくならないように緊張感をもって演奏する。

拍を共有して、最後の爆発的な盛り上がり表現する。

エンディング (Qの部分) の前の緊張感に満ちた部分

Jのリレー

Kのリレー

ユニゾン

音色の工夫

《クラッピング・カルテット第1番》は、打楽器で演奏することもできる。

● 同じ材質の打楽器を組み合わせさせた例



①カステネット ②クラベス ③ウッドブロック (高音側) ④ウッドブロック (低音側)

● 異なる材質の打楽器を組み合わせさせた例



①カウベル ②タンブリン ③ボンゴ ④クラベス